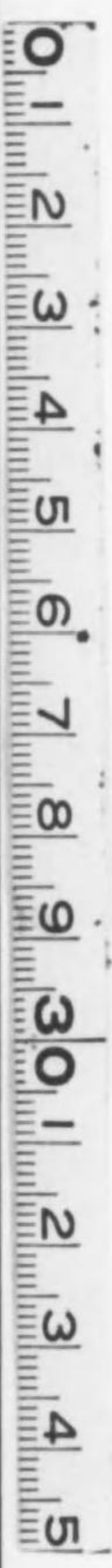


江戸職人哥合心

特279-206
1200501132101
206

特 279



始



持279
206



左
織
多



江戸職人歌合下

右乞食



月夜は一皮の...
 竹やぶの...
 友だち...
 と侍ある...
 心小古...
 こ...
 崎...
 せ...
 た...
 は...

五ノ職人野合下

二

十二番
九
七
五
三



右
印
燈



江戸職人歌合下

けいごめの手はせらるる御にりしおがえはむ。
 久抵ついでにひよおあぐくして結がや何のいへん
 おあえははいおたごめくねおとあさすの事
 よいよさとのこいさりながうづつねとあうく
 あやちちまのいよあめれと早まんのだけ一途に
 初心のうづまのあおまの事
 日やけにうりの物まじり何と紫何ておとよめ
 叶いぬ道へえぬ道へ上のうけとやまては
 おの口のいよまののあまのうづまの同お引^{アツミ}つらま。

堂繁ら梅あどあふふ雅あどのこ那まきぞ。
 なまきぞうくてもはまんた方おはまかを何
 ましと那やれやうは河衣とあてて
 一葉のあまの例とてソひなまきとあてて
 略の世よとてあまのあつは掃と那まきとあ
 さるべくやた乃そまの口はあながんは
 ねがめまのいよめつらとあまのあまの
 ねがめまのいよめつらとあまのあまの
 まおのあまのいよめつらとあまのあまの

十三番

丸楮牙・丹こき



丸楮牙・丹こき



猪牙舟のつ葉うへて大川は月もやなはれ秋をさるらん
ゆへに月舟もさるるさあゆのまはりおの秋ははれ声

たの方より一葉うへては舟もさるるはへし猪牙
舟の陰おくやたの方より一葉うへてと

猪牙舟は陰ありとたの方の人やあやか何舟よ

ゆへに舟もさるる舟形も舟根舟ありとりのあか

猪牙舟ぞ一葉うへては舟もさるるを罪あるとあ

なればと大川は月舟もさるるは舟もさるるは

猪牙舟はつばきさるるたの先つと今更何よりと一葉ぞ

ゆへに舟もさるるゆへに舟もさるる舟もさるる舟もさるる

たのちも舟もさるる判云たの秋えやいゆへにたよ

まはり舟もさるるは舟もさるるは舟もさるるは舟も

さるるは舟もさるるは舟もさるるは舟もさるるは舟も

さるるは舟もさるるは舟もさるるは舟もさるるは舟も

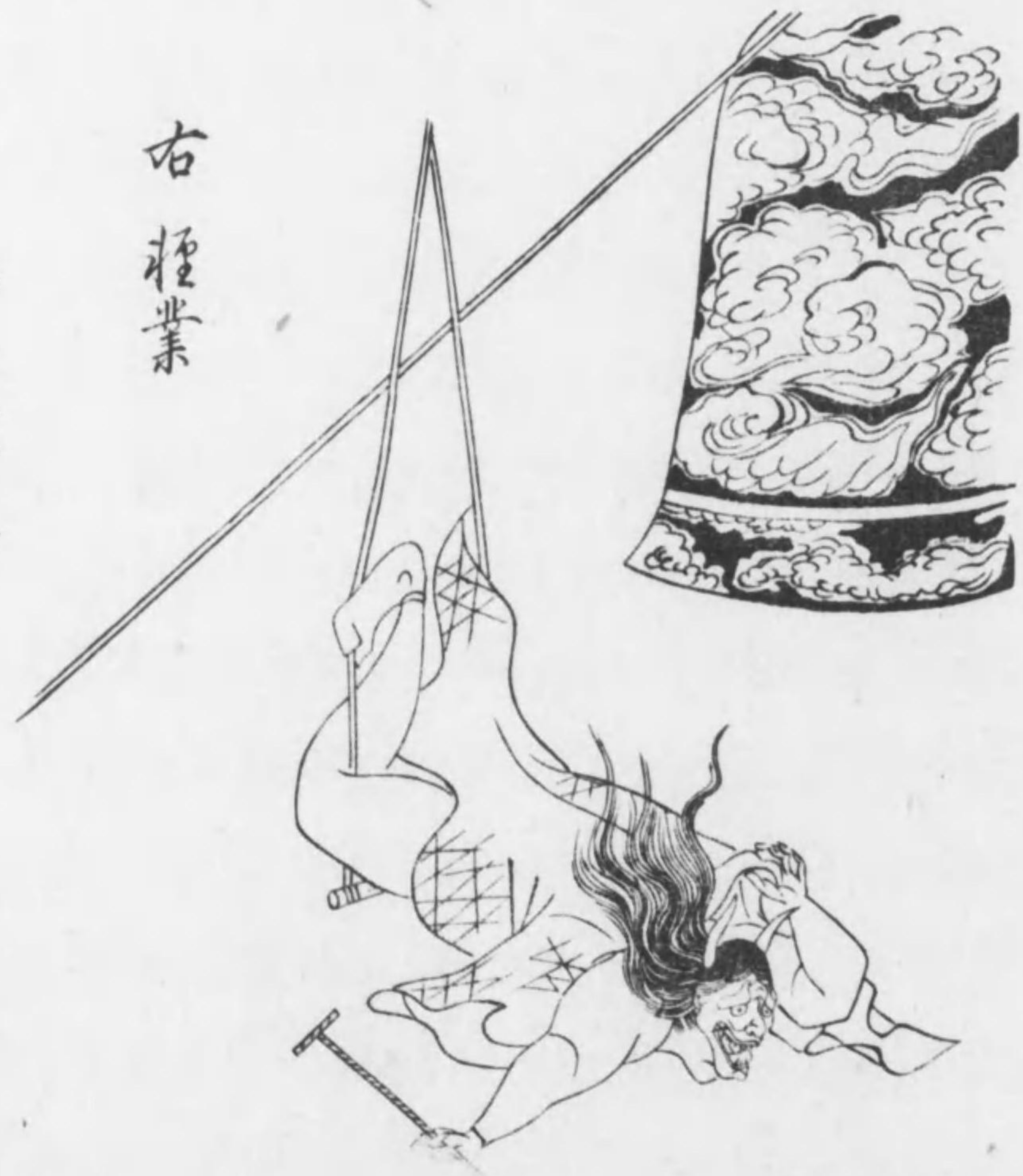
さるるは舟もさるるは舟もさるるは舟もさるるは舟も

さるるは舟もさるるは舟もさるるは舟もさるるは舟も

さるるは舟もさるるは舟もさるるは舟もさるるは舟も

右
極業

江戸職人哥合下



十四番

丸光衛
獅子

江戸職人哥合下



七

椰子筆の志やちかこ立流のりより難波江あぞある存新
月のぎを一本強のうへよして母へ入るふ好方叔姑重
友あをり無難に申判云きあまよこ小堂難波
右種業の一本強はれをさるくは侍らぬぞ天よ
ちるるやハ侍るふ、縁の上よ月をこくおまへに
さるる大忠誠侍が初めはれぬもさる
をこごもあふしを侍流左侍はるべし

中づへまはるる人をさるくは送よのこ南新ど月
くさるるのり侍はるるのなまあまの思はるる
左右又ふ難に判云中づへ入るすあまの思はるる

伊のこいびとにれをさるくは侍らぬぞ天よ
難あは侍るるなま

十五番

きんこや

江戸職人哥合下

九



六湯屋



江戸職人哥合下

十

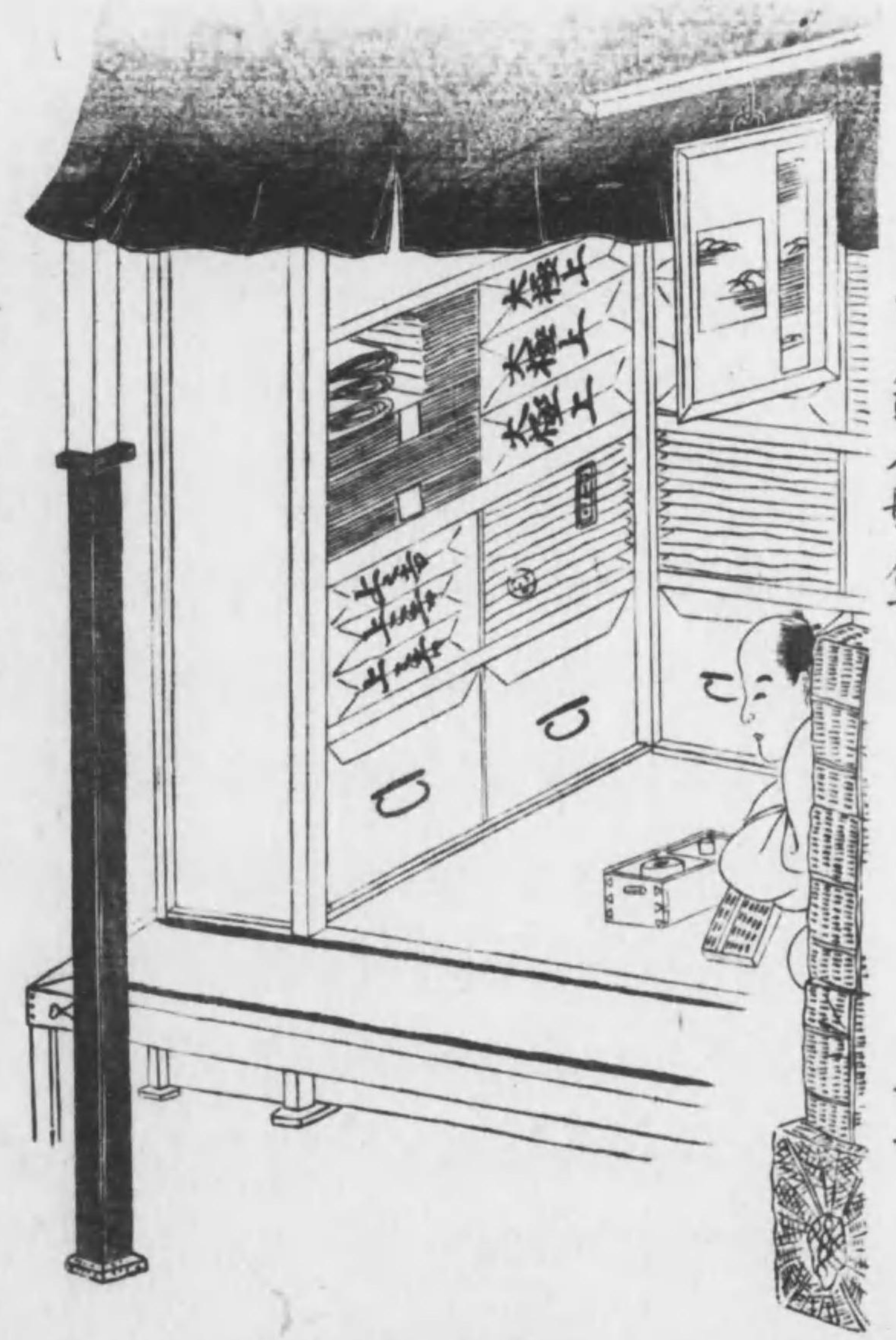
そをいへしこれ中の月いぬまゝに東向唐紙襦袢の裏の空
うら湯志小桶の中にももこゝろ引窓をもちたる月の
友た等と判ふ東向菴の裏中の床すく洗つるの
味なまゝに右引窓紙月を小桶の中お待とま
てし原にこゝろすく待らぬれが友の傍。

いもりのかゝる弊りうら湯志をいへしおみ紙一まゝに
り系すり紙あがもいへしぬ湯やうたなぬ湯をいへし
たか又等と判ふ。いへしおみ紙をいへしやいへし
まゝにこゝろすく待らぬれが友の傍。いへしおみ紙を
いへしおみ紙をいへしおみ紙をいへしおみ紙をいへし

如湯紙柄子紙のぬまゝに婦らやいへしおみ紙を
いへしおみ紙をいへしおみ紙をいへしおみ紙をいへし
うらあゝいへし二幅とて紙をいへしおみ紙をいへし
湯具とて湯あゝ紙時著や。物な茶今も
いへしおみ紙をいへしおみ紙をいへしおみ紙をいへし
まゝにこゝろすく待らぬれが友の傍。いへしおみ紙を
いへしおみ紙をいへしおみ紙をいへしおみ紙をいへし
みへしおみ紙をいへしおみ紙をいへしおみ紙をいへし
たゝしおみ紙をいへしおみ紙をいへしおみ紙をいへし



大茶屋



十之番 左茶屋

江戸職人歌合下

てる存をりぐいおしつ村やまふさささつを標本法松風
 林とふへど茶のうききり 公地とて藤ねねのいふ月をいふ人
 友たも母の首を歌すさうしーあ人月うきとん
 斗ら海なすいゆりいふたも月成ていられあひい
 いふふあもして茶のうききり公地をいふ人
 情あくやあすをいへくむ物。
 ここの紫いかなや林いんもの子とすつすはぬいふくとも
 比乃危の海に岸とあひいりー世をうらめしきうらめしき
 ちとち又アアもあー判左神さいあはれごらり
 ちとちあすーむの後。

十七あ

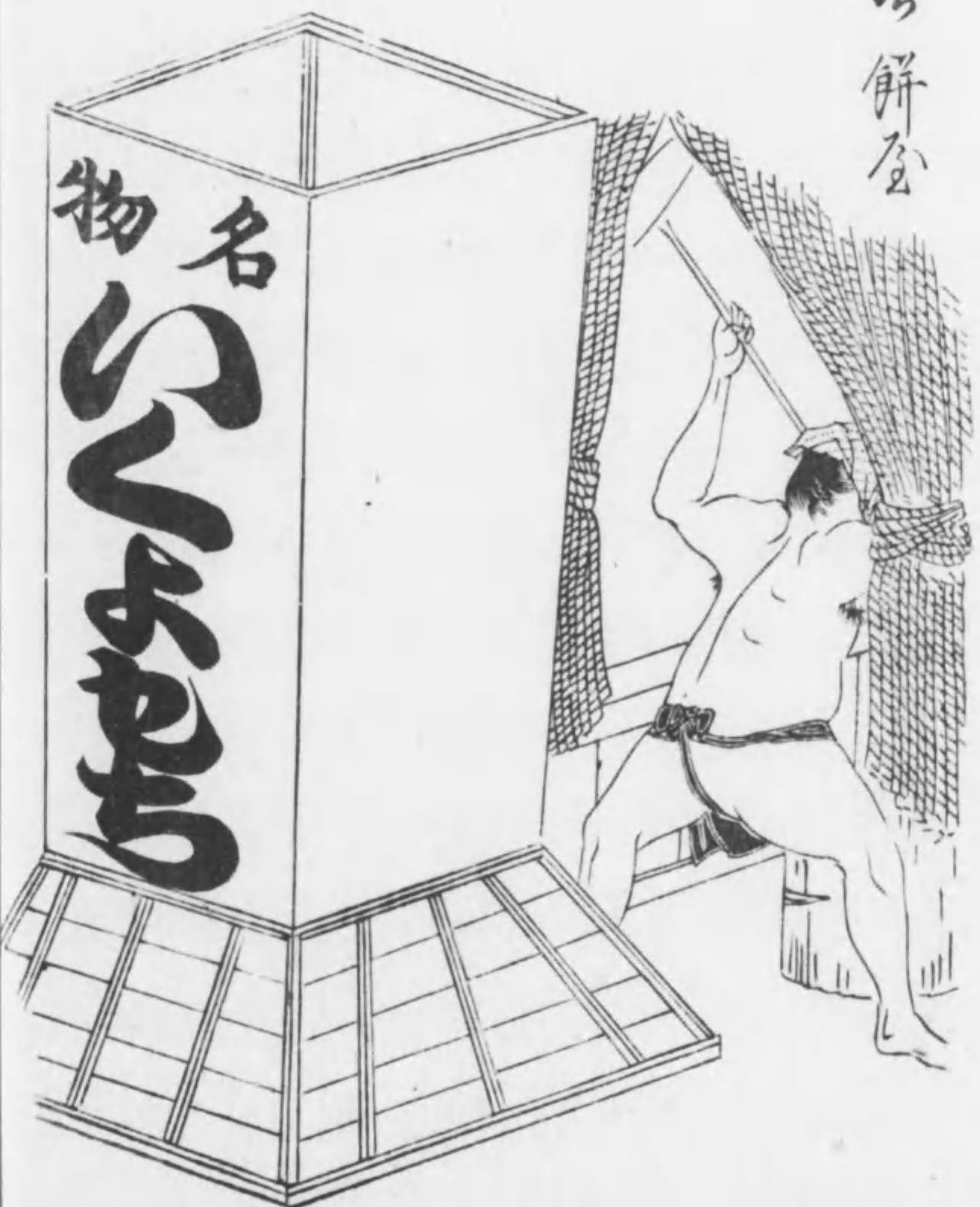
左酒屋



江戸職人歌合下

十一

名物



邦人によいふうな立寄ることもすまの申やうな
 海國の海邊乃月ようれれわいへく物からぬ味全の枕ぞ
 ちやうどこのすまのふかき海は海はあり
 右又しなげく伊丹は海は海はあり
 判ふくもはは山ハ伊丹は海は海はあり
 なしは海は海は海は海は海はあり
 ちやうどこのすまのふかき海は海はあり
 白川を海は海は海は海は海はあり
 ちやうどこのすまのふかき海は海はあり
 の枕ぞ

右
經河



十九番
九象法





右
やう

右
やう



廿番
左
屋
根
葺

左
屋
根
葺

廿二番

左水子屋



右
上菓子屋



まうらゝのめいも種とくぬぞうしつら月夜よ何よこへん
くばりまもかづ月夜うまねふ衣あををぬぬすれ浮き

たぢたふ難や判云西風の種乃思え残く西也

心なをされんがをしきり入ふありま月夜あど

いひしらすとしあふひさるゝあどいぬも

しをぬえ中さうもくもゆりどたぬ傍

今ハ世よあしとけし入ふいぬれなぬりのことあせつん

来んといへどおねをさかたけしんやいつもそいづの先

た方や云た秋感嘆ふ外や化を方や云た樹よ

おぼとよもこれささきか消息のふあり判云

た歌おぼの難をさる事之下の句いよこへん

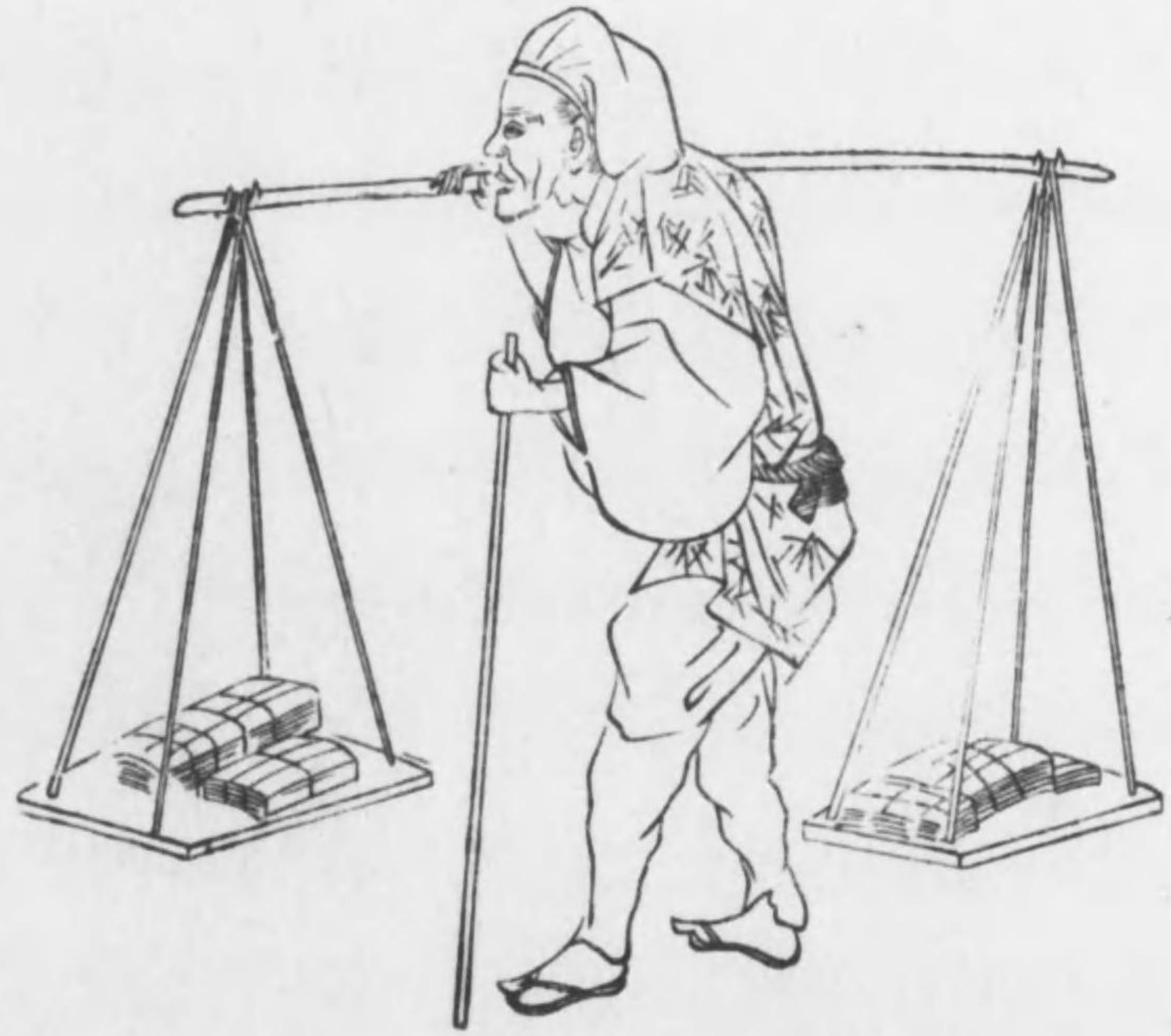
遠ねよ侍まをさす判云も感嘆しゆふ残

あうしつら二つ何々や公碓玉の微塵とと中ゆらん

あれどおぼよハコゆまじり

廿三番

老付木賣



右掃賣



灯火もたちて月をやあがむんきふ有本とふ人おし
 月夜がづる人のこと夢や玉つづき夢をみるある雲ものたが
 たちも夢りも判ふたの歌も職のし先小月夜
 何の事哉いしむるく海どくあるいふ夜夢をたす
 おくもさとい何いりある夢よあけの森井井づり
 草むらぶらふりかしていふおどり母似てあま村も
 侍べー

高つれがまき入車も安有本とておどろく我や何あ
 そのうらふあやの鐘もあつたことおどろくはあかあつた
 ちりふ無可難く夏光とふも歌あくと海どくを
 判ふもあがふ無難なりた秋あを屋を海どく
 おあがふは海いへる事ね店あがれはづかむるあつた
 らんまをさしう侍べー下の白もくくはのり
 ずべくよまはあつた木を海どくも似てまも難
 ちりふも案そのいれあがふ何くづらたの言傍題
 あつたあつたあつたあつた

廿四

左座取

江戸版人形合下

二十六



右山伏



江戸版人形合下

二十六

名もなきものもいざひのけ杖をばるるぞりく葉付をさく
 月をこめて法標少くもあはれなつねよなき見ふれどあはれ
 たかたききりも判ふはるるぞりくはな道はりて
 頗規模とする事あるべけれど上の夕小殿方のを
 なすて遠恨あまなき人をもは十三夜をさめ
 言入ゆきいそちちひいおひのかやけしむ
 ちんすのまのあまを月夜なま入あはれりき
 しげは法標のまはらちもぎあひたけうかた
 ちかあていんていかなもいそちちひのかやけしむ
 峰入りいそちちひのまはらちもぎあひたけうかた

ちかあていんていかなもいそちちひのかやけしむ
 峰入りいそちちひのまはらちもぎあひたけうかた
 ちかあていんていかなもいそちちひのかやけしむ

清原朝臣集

二十一

廿五

九念佛宗



右題目宗



法苑珠林卷下

三十八

事... 月と月... 鬼子母神 十羅刹女も冥加の...
 外心... 判... 新修... 自我...
 入... 秋教... 九月...
 事...

廿五... 九月... 事... 判... 秋教... 九月...

終